

南臺科技大學

函

地址: 71005臺南市永康區南臺街一號
承辦人: 黃心瑜
電話: 06-2533131-6301
傳真: 06-3010007
電子信箱: jap@mail.stut.edu.tw

電子公文

受文者: 國立暨南國際大學

發文日期: 中華民國100年10月6日

發文字號: 南科大日字第1000010270號

速別: 普通件

密等及解密條件或保密期限:

附件: 如文 (100102701_0010270A00_ATTCH6.TIF, 共1個電子檔案)

主旨: 本校訂於2011年10月28日(星期五)辦理「文化產業與日語教育的結合及可能性」國際學術研討會, 敬請 貴校師生踴躍報名參加, 詳如說明, 請查照。

說明:

一、本研討會旨在探討文化產業與日語教育的關聯, 冀望藉由探索文化產業的發展, 同時重新檢討現今的日語教育, 為文化產業與日語教育提供一發展的方向。

二、辦理時間: 2011年10月28日(五), 上午9時至下午17時40分。

三、辦理地點: 本校E棟大樓13樓國際會議廳。

四、檢附本次研討會議程表、邀請函及報名表, 敬請卓參。

五、相關資訊請上網至本校應用日語系查詢

<http://japan.stut.edu.tw/>。

六、相關問題, 請洽業務承辦人: 黃心瑜小姐; 聯絡電話: 06-2533131 分機: 6301; 電子郵件: jap@mail.stut.edu.tw。

七、請惠予參加人員公差假。

正本: 公私立大專校院

副本: 本校應用日語系

100710/06
14:52:57

擬辦:

一、將來文上傳本校公文系統,

公告週知。

二、文陳閱後存。

敬會
人事室

秘書侯東成

李校役, 請依規定辦理應假事宜, 並得 2 日以公

職代理人 洪子鑫

專門委員黃南陽

人事室黃佳吉

大學校長陳和錦

約用許孟瑜

教授兼研習所所長尹邦嚴

助理教授兼學術及推廣事務組組長戴榮賦

100 年 10 月 6 日 暨收文總字第 1000012440 號

4637-3204

11/11/11

11/11/11

11/11/11

邀 請 函

敬啓者

本系誠摯邀請您參加 2011 年 10 月 28 日(星期五)，南臺科技大學應用日語系主辦「文化產業與日語教育的結合及可能性」國際學術研討會。敬請前來共襄盛舉。

【會議名稱】南臺科技大學人文社會學院應用日語系 2011 年國際學術研討會

【主題】「文化產業與日語教育的結合及可能性」

【宗旨】請參考附件「國際會議舉辦目的」之說明。

【主辦單位】南臺科技大學人文社會學院應用日語系(所)

【合辦單位】[日本]國學院大學大學院文學研究科

【協辦單位】教育部

【地點】南臺科技大學 國際會議廳(臺南市永康區南臺街 1 號 E 棟[=圖書館]十三樓)

※ 交通資訊請參閱：http://www.stut.edu.tw/stut_index/about_html/outschool-map.htm

※ 國際學術研討會在本校圖書館舉行，會場場所請參閱

http://www.stut.edu.tw/stut_index/about_html/inschool_map.htm 地圖中標示「E」為本校圖書館。

【時間】2011 年 10 月 28 日(星期五)

肅此邀請，順頌

時祺

南台科技大学應用日語系(所)主任 鄧美華
2011 年 9 月 28 日

※ 參與研討會者將發予研習證明書。

※ 當天開車到校者，敬請攜帶本邀請函，謝謝您的協助。

ご 案 内

各位

謹啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

さて、今度の 10 月 28 日(金曜日)、弊学科主催の国際学術シンポジウムを開催いたします。ご多忙のところ恐縮でございますが、ご興味のある方は、ご参加頂きますと幸いに存じます。

まずは略儀ながら、書中にてご案内申し上げます。

謹白

2011 年 9 月 28 日

南台科技大学應用日語系(所)主任 鄧美華

記

【名称】南台科技大学應用日語系 2011 年国際学術シンポジウム

【テーマ】「文化産業と日本語教育の結合とその可能性」

【開催目的と意義】別紙「シンポジウム開催主旨」をご参照ください。

【主催】南台科技大学人文社会学院応用日語系(所)

【協力】[日本]國學院大學大學院文学研究科

【助成】教育部

【会場】南台科技大学 国際会議室(台南市永康区南台街 1 号 E 棟[=図書館]13 階)

※ 当大学までの交通については、以下をご覧ください。

http://www.stut.edu.tw/stut_index/about_html/outschool-map.htm

※ シンポジウム会場となる国際会議室は、本校の E 棟[=図書館] 内にございます

(http://www.stut.edu.tw/stut_index/about_html/inschool_map.htm 掲載の地図において、「E」と表示されている場所です)。

【日程】2011 年 10 月 28 日(金曜日)

※ シンポジウムに参加頂いた方には、参加証明書を発行いたします。

※ 当日、お車でいらっしゃる方は、大学に入る際、門の係員に本案内状をお見せください。

以上

シンポジウム開催主旨

文化産業（culture industries）とは、知的財産権によって保護されている財・サービスの生産と流通を担うものを指し、創造性を促進させることによって、雇用機会と富を創出し、同時に文化の再生・維持を行うおうとするものである。現在の産業はモノの生産・販売・消費を主体にしたものから、サービスの取引を主体にしたものによって変わってきており、文化産業は注目されている。

東アジア、特に台湾、韓国、日本では産業として無視できないほど発展してきている。台湾の場合は、行政院文化建設委員会が始めた文化産業が、政府の施政の重点に置かれ、全体的な営業額や就業人口もどんどんと成長している。

韓国政府は 1997 年ごろより文化産業を主導的に発展させ、「韓流」を海外に輸出するようになった。文化部門の国家予算も増加している。日本の場合、政府は 2007 年ごろより文化産業に対する戦略を打ち出している。また民間の方は政府より遥かに早く力を入れて、世界を魅了するほどのポップカルチャーを発信し、世界各地に大量の「哈日族」を作り出している。

こうした状況の中、日本語教育による人材育成はさらなる意識転換が必要となる。特に、応用日語（学）系の教育方針では、学生が習得した日本語を実社会の需要に応じさせることが目標となっている。これまで4技能+訳すなどのスキルに、ビジネスなどの専門を合わせたところまでは来たが、それすらも、時代の流れには対応しきれなくなる。今後は、言語の学習や技能習得に加え、比較文化や異文化理解・交流などの周辺の知識を取り入れて授業やコースデザインを行うことも重要視されると思われる。

以上、本シンポジウム開催の目的は、文化産業と日本語教育の結合とその可能性を模索することにある。あらかじめ、以下の三つの問題意識を用意した。

一つ目は観光産業についてである。観光業における日本語の活用、多国間の文化的な差異による言葉の誤解やギャップの解消、埋もれている文化資源やコンテンツの再生などが検討課題となるだろう。

二つ目はメディア産業や、その他の産業についてである。日本のポップカルチャーは、活字メディアや視聴覚メディアという形で表現されているが、文化の表象についての論や、流行発信のための戦略などが検討課題となるだろう。ここでもまだ目の目を見ないコンテンツの掘り起しなどがあると思う。

三つ目は授業実践である。コースの名称だけでなく、個別のシラバスや授業設計も含む。如何にして学生に文化に関心を持たせ、日本語で表現するのか、どのような科目で文化涵養を持つ人材を育成するのか、などが問われる。また、人材を育成する場を考えると、日本語教育+専門領域ということになるが、専門領域をどう考えるかという議論もあると思う。

今回のシンポジウムでは、文化産業と日本語教育の結合を目指し、文化産業の発展と掘り起し、日本語教育の問い直しを行い、前記した文化産業と日本語教育について方向性を打ち出したいと考えている。



報名表

請依您的情形，勾選以下選項，並請於今年 10 月 24 日（星期一）以前以傳真、電話、E-Mail 方式回覆，再次感謝您的配合，謝謝。

服務單位：_____ 姓名：_____

聯絡電話：_____ E-Mail：_____

◆午餐 ☐需要（☐素食，☐葷食） ☐不需要

◆其他：當日回程需搭乘計程車者，請告知報到處。

【聯絡處】：710 臺南市永康區南臺街 1 號 南臺科技大學人文社會學院應用日語系 國際學術研討會籌備委員會

【聯絡電話】：(06) 253-3131 分機 6301 / 【傳真號碼】：(06) 301-0007

【E-Mail】：jap@mail.stut.edu.tw

【聯絡人】：黃心瑜（應用日語系助教）

申込表

参加ご希望の方は、以下に必要事項をご記入の上、10 月 24 日（月曜日）までに、ファックス・電話・E-Mail いずれかの方法で下記連絡先までご一報くださるよう、お願い申し上げます。

ご所属：_____ お名前：_____

電話：_____ E-Mail：_____

◆昼食 ☐必要（☐素食 ☐葷食） ☐不要

【連絡先】：710 台南市永康区南台街 1 号 南台科技大學人文社會學院應用日語系 国際學術シンポジウム運営委員会

【電話】：(06)253-3131 分機 6301 / 【ファックス】：(06)301-0007

【E-Mail】：jap@mail.stut.edu.tw

【連絡担当】：黃心瑜（応用日語系助教）

※ 中文版或日文版填寫其一即可。

※ 中文版、日文版、いずれかにご記入頂ければ、けっこうです。

國際會議舉辦目的

文化產業 (culture industries) 意指受到智慧財產權保護的商品及服務之生產與流通，並藉由創意，增加僱用機會與財富，同時促使文化的再生與維持。現今產業的走向從商品的生產、販賣及消費，轉變成重視服務對象為主，故文化產業特別引人注目。

在東亞，特別是臺灣、韓國與日本的文化產業的發展是不容小覷的。在臺灣，首先由行政院文化建設委員會帶頭推動，並把文化產業發展列為國家施政的重點。而文化產業相關的整體營業額與就業人口亦隨之有所成長。韓國的情況是，韓國政府從1997年左右起，主導發展整個國家的文化產業，「韓流」因此出口至海外；文化部門的國家預算也有所增加。日本方面，日本政府在2007年左右起打出文化產業相關的國家政策。而民間卻遠比政府早從事文化產業，並創造出風靡全世界的流行文化，在世界各地出現為數驚人的「哈日族」。

在上述的情況，日語教育的人才培育上是有必要在觀念上做進一步的改革。特別是應用日語系的教育方針，主要是以學生的日語學習能切合社會上的實際需求為目標。現今大多數的應用日語系雖然已著手從事聽、說、讀、寫與譯之技能，以及商業類之專業的教學，但就連現今這樣的教育現況似乎已無法充分因應時代的潮流。今後除了語言與技能的學習之外；在課堂的教學及課程設計上，是有必要加入比較文化，以及異文化理解與交流等周邊相關知識。

故，本研討會旨在摸索文化產業與日語教育的關聯以及可能性。在此，預設以下三個子題以供參考。

一為，關於觀光產業。如何把日語活用於觀光業？如何解決多國之間因文化差異所產生的語言上的誤解與隔閡？又如何將沉睡的文化資源活化起來？這些皆為值得探討的課題。

二為，關於傳媒及其他的產業。流行文化常以平面媒體與多媒體的方式表現，因此文化表象論以及關於文化流行方法與戰略的檢討顯得很重要。另外，除了上述的觀光與傳媒產業外，我們未提及的其他產業是有討論的空間。

三為，課堂實踐。攸關的不僅是課程名稱，亦包含各別的教學大綱與課程設計。如何讓學生對文化有興趣，並用日語把文化呈現出來？開設何種科目來培養兼具文化涵養的人材？這些都值得深思。又，在人才培育方面，固然重視日語教育+專門領域的結合。那麼，我們該如何思索專門領域之課題？亦值得討論。

綜言之，本研討會旨在探討文化產業與日語教育的關聯，冀望藉由探索文化產業的發展，同時重新檢討現今的日語教育，為文化產業與日語教育提供一發展的方向。

南臺科技大學應用日語系 2011 年國際學術研討會

「文化產業與日語教育的結合及可能性」

日期：2011 年 10 月 28 日：星期五／地點：南臺科技大學 國際會議廳 ※圖書館十三樓

8:30~9:00	報到	
9:00~9:20	開幕式：盧燈茂（南臺科技大學 副校長）・李新鄉（人文社會學院院長）致詞	
9:20~9:30	研討會舉辦宗旨說明：神作晉一（南臺科技大學應用日語系 助理教授）	
9:30~10:30 介紹 演講 50 分 討論	專題演講 (1) 主講人：吳密察（歷史學者，前行政院文化建設委員會 副主委） 題目：文化創意產業當前的政策與策略 主持人：鄧美華（南臺科技大學應用日語系 副教授兼系主任）	
10:30~10:50	茶敘	
10:50~11:50 介紹 演講 50 分 討論	專題演講 (2) 主講人：朴三憲（韓國 建國大學日本語教育系 副教授） 題目：韓國の日本語教科書と「日本」の表象 —日本語（教育）研究会編『高等学校日本語讀本』（上）・（下）を中心に— 主持人：楊素霞（南臺科技大學應用日語系 助理教授）	
11:50~12:00	休憩（會場移動）	
12:00~12:30 發表 20 分 討論 10 分	論文發表A會場—① 發表人：小高裕次（文藻外語學院日本語文系 助理教授） 題目：インターネットにおける情報の拡散と収束—まとめサイトを例に— 主持人：樺祐一（南臺科技大學應用日語系 助理教授）	論文發表B會場—① 發表人：山下訓儀（實踐大學 應用日文系 助理教授） 題目：近年における消費者のブランド志向の変貌と新しい販売戦略 主持人：村越真紀（南臺科技大學語言中心 講師）
12:30~13:30	午餐	
13:30~14:00 發表 20 分 討論 10 分	論文發表A會場—② 發表人：陳柏伸（南臺科技大學應用日語系所碩士班） 題目：役割語のキャラクターについての研究——人称と文末表現の例を中心に— 主持人：小高裕次（文藻外語學院日本語文系 助理教授）	論文發表B會場—② 發表人：佐藤和美（真理大學應用日語學系 助理教授） 題目：日台關係における「人の移動」—來台日本人観光客の動向と台湾の観光競争力— 主持人：陳亭希（南臺科技大學應用日語系 助理教授）
14:00~14:30 發表 20 分 討論 10 分	論文發表A會場—③ 發表人：上條純惠（交通大學語言教學中心 專任講師） 題目：第二外國語學習者の學習動機 —TAE理論を用いた質的分析— 主持人：山藤夏郎（南臺科技大學應用日語系 助理教授）	論文發表B會場—③ 發表人：緒方智幸（東海大學日本語文學系講師） 題目：テレビドラマを使った日本語授業の試み—日本語教育と日本研究の接点を求めて— 主持人：楊琇媚（南臺科技大學應用日語系 助理教授）
14:30~14:40	休憩	
14:40~15:10 發表 20 分 討論 10 分	論文發表A會場—④ 發表人：董莊敬（文藻外語學院日本語文系 助理教授） 題目：日本型インターンシップの実施と問題点—インタビュー調査を通じて— 主持人：鄭玟玲（南臺科技大學應用日語系 講師）	
15:10~15:30	茶敘（會場移動）	
15:30~16:30 介紹 演講 50 分 討論	特別演講 主講人：小川直之（日本 國學院大學文學部教授） 題目：日本における文化遺産（文化財）活用の現状 主持人：伊藤龍平（南臺科技大學應用日語系 助理教授）	
16:30~16:40	休憩	
16:40~17:40 介紹 演講 50 分 討論	專題演講 (3) 主講人：小川直之（日本 國學院大學文學部教授） 題目：日本における文化遺産（文化財）活用の現状 主持人：伊藤龍平（南臺科技大學應用日語系 助理教授）	
17:40~17:45	閉幕式（鄧美華 南臺科技大學 應用日語系 副教授兼系主任 致詞）	

